

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

オリンピックは人間の身体の祭典であるといえ、何をいまさらということになりそうである。運動競技は身体の高さを競うことにはかならないからである。だが、⁽¹⁾観客の身体の高さの祭典でもあるといえ、むしろ逆に⁽²⁾「評しむ視線が返ってくる」だろう。誰も観客の身体のことなど考えはしないからだ。

もちろん、オリンピックが観客を必要としていることは誰も否定できない。いや、それこそこの国家規模のショー・ビジネスを成立させてきたものなのだ。実際、ギリシアのナシヨナリズムを大いに刺激することによって成立した第一回大会はともかく、第二回、第三回、第四回大会などは万国博覧会の付録にすぎなかった。観客はむしろのこと、当時は、選手の動員さえ難しかったのである。

⁽³⁾掲げた大義名分とは（ ）、オリンピックは一貫してナシヨナリズムの祭典にほかならなかったが、そのナシヨナリズムを可能にしたのはじつはテクノロジーの発達だった。まず、選手と観客を動員する交通手段の発達が必要だった。さらに、競技の様子を報道する通信手段、ラジオやテレビといったマス・メディアの発達も不可欠だった。そしてこのマス・メディアの発達は、観客の身体をも大きく変容させたのである。

人はスポーツを好むだけではない。それを見ることも好む。なぜ好むのか、他人の身体と同調したいからである。同調することによって、自身の身体の高さを試したいからだ。スポーツだけではない。人間がダンスのような身体芸術を生み出したのはまさにそのためである。逆に、ダンスやスポーツといった身体芸術があったからこそ、人間というトク^aシユな動物が生まれたのだといっていいほどである。人間はおそらく、ダンスやスポーツのなかで独自の共同性を^bツチカつてきたのだ。

古代オリンピックもまたそのような身体の高さに基づいて成立したとすれば、近代オリンピックはその様相を大きく変えたといわなければならない。マス・メディアは、その場にはいない人間をも観客に変えてしまったのである。そしてその場にはいない人間にとっては、オリンピックは、身体の問題である以上に、意識の問題、頭脳の問題であるほかなかった。すなわち、⁽⁴⁾テクノロジーの発達は、オリンピックを（ i ）の祭典から（ ii ）の祭典に変えてしまったのである。

もちろん、スポーツの祭典から身体の高さがまったく払拭されるなどということはない。オリンピックはこれからも身体の高さを見直す^cケイキとしてありつづけるだろう。だが、マス・メディアによって報道されるのは、基本的に勝敗であり記録である。また、あくまでもそれにまつわる⁽⁵⁾エピソードであり、物語である。映像もまた、その物語を補完すべく編集されるといっていい。それは、見ることによって同調できるように

身体の豊かさではない。観客は身体によって感じる以上に、頭脳によって考えるようになってしまったのである。

○・○一秒が争われる世界は、実際、身体というよりはむしろ頭脳に属するというべきだろう。むしろ、オリンピックを変えたテクノロジーということでは、とりわけ陸上競技や水泳といった競争種目において、⁽⁶⁾計測手段の発達を挙げるときかもしれない。たとえば時計は時と場所の重要性を大きく減じた。時と場所は選手にとっても観客にとっても決定的に重要なはずだが、記録の世界では **A** 的なものになってしまった。正確な計測は、時と場所を超えた抽象的な競技空間を作ってしまうからだ。いまや、いつどこで走ろうとも、選手は、歴史上のあらゆる人間が走ったのと同じ場所を走っているに等しいのである。

むろん、それは ^d サッカクにすぎない。そのことはおそらく競技するものもつともよく知っているだろう。だが、オリンピックの全体がひたすら抽象的な競技空間を目指していることは疑いない。競技場の建設ひとつにそれは明らかである。 **B** 的な競技場とはすなわち抽象的な競技空間にほかならない。そしてそれは、身体的というよりは頭脳的といったほうがよいような空間なのである。そこには現実の観客など存在しないほうがいいのだ。

だが、マス・メディアの発達は、オリンピックの異なった面をも引き出した。精密になったテレビ画像は、観客が存在したほうがよい競技、いや、観客の身体を必要とさえする競技の重要性を示唆しはじめたのである。球技や格闘技もそうだが、とりわけ、ある意味では計測不可能な芸術点なるものを含む一群の競技、すなわち、新体操、フィギュア・スケート、シンクロナイズド・スイミング〔アーティスティック・スイミング〕など、一般に ⁽⁷⁾ 芸術スポーツと呼ばれる種目がそれである。いまや、オリンピックの未来は、この芸術スポーツの行方にかかっているように思われるほどだ。まさにそこにおいて、観客がかつての **C** 性を取り戻しうるかもしれないからである。

芸術スポーツといっても、何のことか分からない人のほうが多いに違いない。体操、新体操、シンクロナイズド・スイミング、フィギュア・スケートなど、美しさを競うスポーツの総称である。耳慣れないのは当然で、二十世紀も九〇年代になってようやく用いられるようになってきた言葉なのだ。だが、この芸術スポーツにこそ、オリンピックの、いやスポーツの未来がかかっていると言っているほどである。この呼称が登場したということ自体、人間の身体に関する考え方の大きな変化を象徴しているからである。

むろん、ほんとうは美しくないスポーツなど存在しない。全力で戦っている人間はみな美しい。野球選手もサッカー選手もテニス選手も、みな美しい。少なくとも、美しさに輝く一瞬を持っている。とすれば何をいまさら芸術スポーツかといわれそうだが、この言葉は、その美しく見える一瞬こそがスポーツのもっとも大切な要素ではないかと問いかけているのだ。学問的な定義において、スポーツはすべて芸術ではないかと密かに問いかけているのである。

スポーツ、さらに総合的な言葉でいえば体育は、じつは必ずしも美しさを追求するものではなかった。近代体育はまず何よりも軍事教練として始まった。ヨーロッパの後を追うように **D** 化に励んだ日本においてはさらに著しいが、それはまず国民の体力の向上を目指すものだったのである。その最大の **E** 化が軍隊だが、軍隊の予備軍としての学校、それを補完するものとしての工場においても、体育はもつとも重要なものと見なされていた。

⁽⁸⁾ 身体近代化を推し進めたのはじつは愛国主義であり軍国主義だったということになるが、しかしその背後にはさらに重要な動機が隠されていた。生産第一主義である。いかに効率よく生産力を上げるかということこそ、近代体育の、また近代スポーツの隠された主題だった。二十世紀の過半を占めるのは米ソの冷戦だが、社会体制の違うこの両 ^e ジンエイが争っていたのは軍事力では必ずしもなかった。むしろ生産力だったのである。オリンピックは長いあいだ冷戦を反映したが、その間の最大の話題は記録の更新とメダルの数にほかならなかったのである。身体祝祭を測る物差しが、国家の生産力を測る物差しと寸分も違っていなかったのだ。

米ソ二大国の没落と、生産第一主義への疑いの高まりが、ほぼ軌を一にしていたことに注意すべきだろう。芸術スポーツはこの変化を象徴するように登場してきたのである。

(三浦雅士『考える身体』河出書房新社による)

問(一) 傍線部 a ～ e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a = **1** b = **2** c = **3** d = **4** e = **5**

- a トクシユ
- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| シユコウをこらした演出。 | 各国のシユノウが集まる。 | シユリヨウ民族の歴史。 | シユシヨウな心がけだ。 | シユヒ義務が発生する。 |

e					d					c					b				
ジン エイ					サッ カク					ケイ キ					ツチ かつて				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
ジン ソク	検 事 が ジン モン	ジン ダイ な 被害	問 題 解 決 に ジン リ ヨク	イチ ジン の 風 が 吹く	行 方 不 明 者 を ソウ サク	経 費 を サク ゲン	様 々 な 思 い が コウ サク	サク ジツ の 出 来 事	防 犯 の タイ サク	両 社 の レン ケイ	ケイ ヤク 書 を 交 わ す	民 衆 を ケイ ハツ	科 学 技 術 の オン ケイ	ケイ ヒン が 当 た る	損 害 を バイ シ ヨウ	細 菌 を バイ ヨウ	バイ ウ 前 線 が 停 滞	顕 微 鏡 の バイ リツ	バイ シ ン 員 を 務 め る

問(二) 空欄 A E を補うのにふさわしい言葉を、次のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上

選んではいけません。) A 6 B 7 C 8 D 9 E 10

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 1 抽象 | 2 近代 | 3 理想 | 4 二義 | 5 身体 | 6 視覚 |
|------|------|------|------|------|------|

問(三) 傍線部(1)「観客の身体の祭典でもある」とありますが、筆者がそのように述べる根拠となるものは何ですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 国家規模のショービジネス

- 2 掲げた大義名分

- 3 ナシヨナリズムの祭典

- 4 交通手段の発達

- 5 身体のコモン性

問(四) 傍線部(2)「訝しむ視線」とはどのような視線のことを言いますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 得意げな視線

- 2 悲しげな視線

- 3 不審げな視線

- 4 意味ありげな視線

- 5 不興げな視線

問(五) 傍線部(3)「掲げた大義名分とは () の空欄 () を補う言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 肌が合わず

- 2 裏腹に
- 3 犬猿の仲で
- 4 縁がなく
- 5 畑が違い

問(六)

傍線部(4)「テクノロジーの発達は、オリンピックを（ i ）の祭典から（ ii ）の祭典に変えてしまった」の空欄（ i ）、（ ii ）を補う言葉の組合せとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 i 身体 ii 観客
- 2 i 観客 ii 頭脳
- 3 i 頭脳 ii 身体
- 4 i 身体 ii 頭脳
- 5 i 頭脳 ii 観客

問(七)

傍線部(5)「エピソード」の言いかえとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- 1 挿話
- 2 実話
- 3 談話
- 4 寓話
- 5 訓話

問(八)

傍線部(6)「計測手段の発達」とありますが、それによって何が起こりましたか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 望ましい競技環境が整い、これまでにない好記録が生まれた。
- 2 抽象的な競技空間が出現し、時と場所の重要性が再認識された。
- 3 抽象的な競技空間ができあがり、時と場所の重要性が減った。
- 4 他の競技に比べて、陸上や水泳といった競技種目の記録が飛躍的に伸びた。
- 5 抽象的な競技空間でも、時と場所を超えることができないということが明らかになった。

問(九) 傍線部(7)「芸術スポーツと呼ばれる種目」とありますが、筆者は「芸術スポーツ」についてどのようなことを述べていますか。その説明として

ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 芸術スポーツの集客力によってオリンピック人気を高めなければならない。
- 2 芸術スポーツはスポーツにおける美の重要性を再認識させてくれる。
- 3 芸術スポーツには計測不能な芸術点があるので、オリンピックにはなじまない。
- 4 芸術スポーツという呼称がフィギュア・スケートやシンクロナイズド・スイミングを芸術と認知させることになった。
- 5 芸術スポーツの選手は他の競技種目の選手よりも美的感覚が問われる。

問(十) 傍線部(8)「身体近代化」と関わりのないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- 1 体育
- 2 国民の体力の向上
- 3 軍国主義
- 4 生産第一主義
- 5 身体祝祭

問(十一) 本文の内容と合致するものを、次のうちから二つ選び、その番号をマークしなさい。(解答の順序は問いません。)

19

20

- 1 冷戦時、米ソ両大国は、平和の祭典であるオリンピックにおいては軍事力ではなく生産力を競い合った。
- 2 万国博覧会の付録に過ぎなかったオリンピックは、ナショナリズムを刺激することによって人気を挽回しようとした。
- 3 マスメディアが作り上げたその場にはいない観客は、映像を通してスポーツを身体で感じるようになった。
- 4 人間の身体美しさを追求する芸術スポーツは、同じ目的を持って登場した近代体育の流れを引き継いでいると言える。
- 5 米ソ両大国が衰退し、生産第一主義が疑われ始めた時期に芸術スポーツが登場したのは極めて象徴的な出来事である。
- 6 近代オリンピックによっていったんは消えかかった観客の身体性を取り戻す鍵となるのは、芸術スポーツと呼ばれる種目である。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

生産者・消費者・分解者という概念は、『生態学辞典』の説明にもあるように、生態系を説明するうえで欠かせないものである。それゆえに、この三つ巴さんまへの概念は、生態系という言葉が孕はらむ、説明範囲の広がりの可能性と観察者のすべてを見通せるという全能感を両方含んでいる。この三つの概念が揃い踏みしたのは、一九二六年のドイツであったが、それについて論じる前に、まず、現在どのような言語環境のなかでこの三つ巴の概念が使われているのか、とくにその違和感を、生態学の教科書を読みながら考えてみたい。

(イ)、生産者・消費者・分解者という生態学の概念は、奇妙な響きを持つ。とりわけ、言葉のニュアンスに⁽¹⁾拘泥こうでいする人文学者にとって、⁽²⁾その奇妙さはそれほど不思議なものではないだろう。

これらの概念に私たちが出会うのは、ほとんどの場合、中学校の理科の時間である。光合成を営む植物が「生産者」、それを食べる草食動物や、草食動物を食べる肉食動物が「消費者」、そして、それらの排泄物や死骸をむさぼる菌類や微生物が「分解者」と定義されている。生態系を跋扈はつこし育ち死んでいく生きものたちが、これら三種類の生物群集に分類されることは覚えるべき内容であった。もちろん、消費者は、第一次消費者(草食動物)と高次消費者(肉食動物)に分類されることも多いが、大まかに分けると三種類であることに変わりはない。

これらの概念との遭遇の記憶を辿たどると、いまなお感じずにはいられないとまどいが浮かび上がる。

第一に、生きものを記述するにはあまりにも経済学的な用語法であること。

ブドウ糖を「生産」するアサガオ。シマウマを「消費」するライオン。アサガオやシマウマやライオンの排泄物や死骸を「分解」する無数の微生物たち。全体として、とても人間的に、もっといえば人工的に響く。そして、生産者と消費者は経済学の用語であるため、新聞の経済面で報道される出来事のように響く。そんななかで、分解者はすこし浮いていることに気づくがここでは深入りしない。いずれにしても、こうしたぐいぐいの三つの生物群集に分けるのは良いとしても、そのさい生態学独自の用語を生み出さなかったことは人文学の立場からするとたいへん興味深い。

第二に、⁽³⁾「食べる行為」が「消費」と表現されること。

人間は、たしかに野菜も肉も食べることができる。食料を消費している、という言い方は不自然ではないが、どこか機械的で、食べることの野性がそぎ落とされている感が否めない。(ロ)、動物の食べる行為を観察すると、消費という表現はあまりにも人間的でそぐわない。消費とは、貨幣を媒体にして商品を購入することである。動物は、貨幣は言うまでもなく、身体の外にあるものを媒体にして何かを食べることは稀である。食べることの直接性が伝わってこない。

以上二つの違和感は、⁽⁴⁾ 物理学と経済学という二つの異なった学問ジャンルの説明原理を混用していることにあるように思える。

生物界の全体像を生態系とみる生態学が、あきらかに物理学的な所作^aに基づくことは、その限界であり可能性である。物理的なシステムをモデルとしている以上、それは「感情」や「雰囲気」や「絆」や「縁」など、あいまいなものを説明用語として用いることは原則として^b忌避される。自動車の構造のように、生物群集の動きの「法則」が理解できること、そして全体を見通したいという知的野心が前提になる。その野心は、物理法則とそれを成り立たせる数学に基づいている。世界のなかの生きものの現象をピックアップして観察しそれを論理式に落とせば、現象同士の連関を見つめることが可能になる。

つぎに、生物の世界を経済学の所作に基づいて説明していること。経済学である以上、生物の世界は市場として比喩される。ジャングルであれ、サバンナであれ、この「市場」には、さまざまな植物や動物が同じ価値体系のもとで存在していることになる。ちょうど市場が貨幣を媒体とした価値体系に基づいているように。⁽⁵⁾ 生態学の場合、貨幣に代わるものは（ ）であるが、生産者、消費者、分解者が行き交う場所、つまり食物連鎖のリングでは、自己保存の欲望を満たすか満たさないかという価値体系が渦巻く。自己保存、（ハ）、エネルギーを生み出し、それをもとに、細胞の物質の出し入れを管理して、組織や器官を動かすことが、このシステムの貨幣となつていのである。経済学もまた、貨幣の動きに基づき、社会を見通してみようという欲望に突き動かされた学問であつた。欲望の^c発露がどこから、どのように生じるのか。その議論をいったん留^d保したうえで、関係性を見通す学問である生態学と経済学。これら二つの分野が多く^eの学生たちにとって魅力的に見え、世界各国で大きな学的な^(注1)ヘゲモニーを生み出しているのは、これらが説明できる規模と論理性にあるとみて良いだろう。

物理学と経済学。この二つの学問の論理に基づいて描かれる生物の世界は、とても見通しが良い分、人工的で硬質なイメージを抱く。ここが言語のニュアンスを生命線とする人文学にとつての生態学への違和感の原因のひとつであろう。

（二）、本論の究極的な目的は、人文学の立場から、倫理的に生態学の言語を批判し、その使用禁止を提案するものではない。人文学の立場からの生態学の観察は、基本的に外在的である。外在的なために、人文学の言葉での暴力的な^(注2)スクラップアンドビルドをもたらし危険性をはらんでいる。それは、生態学が自然の世界に踏み込み、何日も観察し、虫に刺され、寝不足になつて得られた豊富な知見を踏み潰すことにはかならない。

生態学の魅力は、（ホ）、生態学の教科書である『生態学入門 第二版』（二〇一二年）を紐解くと、たくさん描かれている。イギリスの⁽⁶⁾オオシモフリエダシヤクという蛾が、もともとは白っぽい明色型ばかりであつたのが、一八五〇年代から黒い暗色型が増え、一九四〇年代には暗色型が九六パーセントにまでなつたという。この原因は、石炭の消費の増大によつて大気汚染が進み、樹木の表皮を覆っていた白っぽい色の地衣類や^{せんたい}蘚苔

類が、枯死^eしたため、黒い色の樹皮がむき出しになり、明るい色では鳥などに捕食されやすくなったため、暗色型の方が、適応度が高くなり、暗色型を残す自然選択が起こったからだという。人間の経済活動によって、わずか一〇〇年で蛾の体の色が変わること。このような生態学的事実がもっと人文学で論じられれば、人文学はもっと時間概念を豊かに、歴史の動きをダイナミックにとらえることができるし、それによって学問自体もさらに鍛えられるだろう。

（藤原辰史『分解の哲学 腐敗と発酵をめぐる思考』青土社による）

（注1）ヘゲモニー＝覇権、指導権、主導的地位。

（注2）スクラップアンドビルド＝古くなったものを壊して新しく作り直すこと。

問(一) 傍線部 a～e の漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、各群のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a	≡	1	b	≡	2	c	≡	3	d	≡	4	e	≡	5
a	所作	(1)	砂利	2	座興	3	教唆	4	搾取	5	短冊			
b	忌避	(1)	克己	2	最期	3	気配	4	旗印	5	平易			
c	発露	(1)	法度	2	初心	3	乱伐	4	抜粋	5	托鉢			
d	留保	(1)	歩合	2	褒美	3	薄暮	4	舗装	5	官報			
e	枯死	(1)	仮説	2	愛顧	3	牙城	4	擁護	5	古巢			

問(二) 空欄（イ）～（ホ）に入る言葉としてふさわしいものを、次のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。（同じ番号を二度以上選んではいけません。）

イ	≡	6	ロ	≡	7	ハ	≡	8	ニ	≡	9	ホ	≡	10
1	ましてや	2	そもそも	3	ただし	4	つまり	5	だから	6	たとえば			

問(三) 傍線部(1)「拘泥する」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

1	たじろぐ	2	こだわる	3	あやかる	4	かかわる	5	かしづく	11
---	------	---	------	---	------	---	------	---	------	----

問(四) 傍線部(2)「その奇妙さ」とは、具体的にはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 生産者、消費者、分解者という用語に含まれる言葉のニュアンスが、人文学者には理解できないこと
- 2 生産者、消費者、分解者という三つの概念が生態系を説明する上で欠かせないものであることに違和感を覚えること
- 3 生産者、消費者、分解者という三つの概念に最初に出会ったのが、中学校の理科の時間であること
- 4 生産者、消費者、分解者という生態学の用語が、経済学などの用語を転用したものであること
- 5 生産者、消費者、分解者という三つの概念が揃い踏みしたのが、一九二六年のドイツであったこと

問(五) 傍線部(3)「『食べる行為』が『消費』と表現されること」とありますが、それについて筆者はどのようなことを述べていますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 動物にとつては食べることは「消費」でないが、人間にとつては確かに「消費」である。
- 2 食べる行為を「消費」と表現することは全く不自然で、どこか機械的である。
- 3 「消費」という表現は不自然ではないが、それでは食べることの直接性が伝わってこない。
- 4 人間は貨幣を媒体にして食料を「消費」しているが、食べることの野性味は残している。
- 5 人間にとつて食べることは「消費」であり、動物とは違った人間的な行為である。

問(六) 傍線部(4)「物理学と経済学という二つの異なった学問ジャンル」とありますが、それによって生態学にもたらされたものは何ですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 規模の大きさと学的ヘゲモニー
- 2 言語のニュアンスと論理性
- 3 知的野心とあいまいな説明用語
- 4 見通しのよさと硬質性
- 5 市場原理と現象同士の連関

問(七) 傍線部(5)「生態学の場合、貨幣に代わるものは()である」の空欄()を補う言葉としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- 1 植物や動物
- 2 組織や器官
- 3 エネルギーや物質
- 4 生産者や消費者
- 5 ジャングルやサバンナ

問(八) 傍線部(6)「オオシモフリエダシヤクという蛾」とありますが、これに関してどのようなことが述べられていますか。その説明としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- 1 人間の経済活動が暗色系の蛾を残す引き金になった。
- 2 黒い色の樹皮がむき出しになるにつれ明色系は捕食されやすくなった。
- 3 大気汚染による地衣類や蘚苔類の枯死が、体色の変化の要因と言える。
- 4 十九世紀半ばから百年の間に、暗色系が明色系に取って代わった。
- 5 蛾の体色は人間の経済活動により汚れた大気に染まって黒くなった。

問(九) 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- 1 物理学的な説明は論理や数式に基づいているので、多少曖昧な用語を使っても現象同士の連関を見通すことができる。
- 2 生物世界という市場で、動物は植物と違い自己保存の欲望を満たすという原理に基づいて行動している。
- 3 草食動物や肉食動物は「消費者」に分類されるが、肉食動物はさらに細かく分類される場合がある。
- 4 「生産」や「消費」が経済学の用語であるのに対し、「分解」だけが生態学独自の用語であり、やや浮いている。
- 5 違和感があるとはいえ、生態学の知見を取り入れることで、人文学はより豊かな視点で歴史をとらえられるようになるであろう。

設問は以上です。